

# 生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	「附属病院における APS(acute pain service)が関与した手術患者における術後疼痛および有害事象に関する検討」	
1. 研究の目的と方法	JPOPS（急性疼痛管理サービスチーム）では術後鎮痛が困難な患者さんに対して持続神経ブロックや経静脈的自己調節鎮痛法（IVPCA）などの装置を用いて、術後鎮痛と副作用に関してチームでケアを行っています。  術後疼痛管理の重要性は単に患者満足度を上げることのみならず、術後の回復力強化という観点からも非常に重要です。当院では麻酔科が主導する急性疼痛管理チーム（以下JPOPS）が必要に応じて対応しています。本研究は、急性疼痛管理チームの活動がどのような効果を上げているかを検証するものです。	
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2025年10月31日まで、研究の実施を予定しています。	
3. 対象となる方等	2010.4.1～2023.8.31までの間に慈恵医大附属病院において手術を受けた患者のうち、術後に当院の急性疼痛管理チーム JPOPS（jikei-postoperative pain service）が関与した患者様	
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。
	(3) 情報の種類	年齢、身長、体重、性別、疾患名、麻酔方法、硬膜外カテーテル挿入の有無、手術種別、手術時間、出血量、  術中輸液量、術中輸血量、術中体位、手術を受ける際の患者の重症度を示す指標である ASA-PS（American Society of Anesthesiologists Performance Status）、腫瘍の性状、病歴、術中経過、術後使用薬剤、  安静の痛みの程度・体動時の痛みの程度、  有害事象（神経障害、嘔気嘔吐、搔痒感）、  カテーテル抜去までの日数、  患者自身でコントロール可能な疼痛制御装置のプッシュ回数、有

		効回数、麻薬使用量、	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座
		氏名	小池正嘉
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	(1)の研究責任者と同じ	
(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。		
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2023年12月頃～		
<b>【問い合わせ先】</b>	機関名：東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座 研究責任者：講師 小池 正嘉（こいけ まさよし） 窓口担当者：講師 小池 正嘉（こいけ まさよし） 電話番号：03-3433-1111（内線 4040） 対応時間：平日 09：30 ～ 16：00		

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。  
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。